

ガス&エネルギーで未来を拓く

**Iwatani**

ガス&エネルギーで未来を拓く



## 世の中に必要なものこそ栄える イワタニだからこそできることがあります

時代の先に必要なものを見据え、産業と暮らしを支えたい。

イワタニは、ガス&エネルギーを通じて人と社会に貢献します。

地球が何億年もかけて育ててくれた、ガス&エネルギー。

このかけがえのない資源を扱う企業として、

1930年の創業以来、LPガスや水素、産業ガス事業を中心に、

生活関連商品をはじめ、機械、溶材、電子機器、

マテリアル、食品など幅広い事業を展開してきました。

その原動力は「世の中に必要なもの」を探求する精神のもと、

一人一人が持つ、お客さまとの信頼関係やネットワーク、

そこから生まれる発想や挑戦といった人間力に裏付けされます。

新たな価値の提案と潜在ニーズの発掘に努めること、

どのように時代が変わろうとも、この使命は揺るぎません。

そして、ますますお客さまから求められる企業に成長しながら、

人と社会の明日へ、最善を尽くし続けます。



# お客さまとともに 技術の未来を発信します



新たな研究開発拠点として開設された「中央研究所」(兵庫県尼崎市)

商社ならではの「情報力」と長年培った独自の「技術力」。イワタニが持つポテンシャルを大きく花開かせるために、2013年4月、新たな研究開発拠点として、「中央研究所」を開設しました。従来から蓄積してきたガステクノロジーをベースに、新たに世界トップレベルの各種分析機器・多彩な試験環境を整備。シーズとニーズを融合した新たな価値の創造

で社会に貢献したいと考えています。めざす方向は、「開かれた研究所」。自社単独の開発だけでなく、お客さまやパートナー企業をはじめ大学・公的研究機関や行政団体など、多岐にわたる企業・団体とのコラボレーションにより、新技術・新商品を生み出していきます。そのために、最先端の研究課題に対応する、多様で高度な分析機器・設備を整備。

お客さまとの共同研究から、ご要望にお応えする製品開発までのワンストップサービスを実現します。また、当社が開発したオリジナル技術をご理解いただくために、水素ステーションをはじめ、各種のデモンストレーション機能も併設。水素社会をはじめとした、イワタニが提案する未来の姿を、「中央研究所」を通じてわかりやすく体感いただけます。

未来を考えることは  
水素のこれからを考えること



Licensed by TOKYO TOWER





日本で初めてショールームを併設した「イワタニ水素ステーション 芝公園」(東京都港区)

イワタニは1941年から水素の潜在ニーズに着目し、液化水素の用途開発でも先陣を切ってきました。2014年12月、トヨタ自動車株式会社の燃料電池自動車「MIRAI」が市販開始。水素を活用する社会に向けた取り組みが加速する中、当社も水素ステーションの設計・施工機能の一元化を図り、技術・エンジニアリング体制を強化することで、全国

20ヶ所の水素ステーション建設などインフラ基盤の強化を推進しています。2014年7月にオープンした国内初の商用水素ステーション「イワタニ水素ステーション 尼崎」を皮切りに、福岡県、東京都をはじめ四大都市圏を中心に着実に建設を進めています。また、家庭用燃料電池の技術開発にも取り組んでいるほか、2006年から毎年、水素エ

ネルギー普及の気運を盛り上げ、ネットワークづくりの“場”を提供することを目的に「水素エネルギーフォーラム」を開催。水素に関係する分野の企業・団体・個人の架け橋となり、水素エネルギー社会の実現に向けて取り組んでいる他、次の時代を担う子供たちへ、水素の魅力やクリーン性を伝えるため、水素サイエンス教室なども全国で行っています。





## LPガスを日本のすみずみへ 目的地は暮らしと社会

二世帯住宅に設置された「エネファーム」(神奈川県海老名市)

1953(昭和28)年——。薪や炭の薪に悩まされていた主婦たちの台所の負担を軽減したいと、日本で初めてLPガスの全国販売を始めたイワタニ。輸入から家庭への一貫供給を担う立場で、安定供給だけでなく、保安体制の充実までを着実にを行っています。その供給体制は、産ガス国との直接輸入契約に始まり、自社備船タンカーを運用し輸入基地へ備蓄。

そして、独自のLPガスブランド「Marui gas」として各ご家庭へお届けしています。近年では、LPガスから水素を取り出して発電し、同時に発生する排熱から温水を作る家庭用燃料電池「エネファーム」の販売も開始。「Marui gas」の特約店会を通じて一丸となって取り組んでいる「W発電」についても、「家計と環境にやさしい」という従来のアプローチ以上に、

電力供給源を分散し、災害時の電力確保に効果を発揮するシステムとして一層の普及促進に努めています。またLPガス事業は「分散型」で「災害対応力」の強さが信頼の証。「Marui gas 災害救援隊」には、液化石油ガス設備士などガスのエキスパート約3,000名が登録され、地域の消防署や自治体の消防防災課などと協力して訓練を重ねながら、万一の際に備えています。

フィールドは海を越えて  
イワタニは期待を超えていく





関西国際空港の出発ロビー（大阪府泉佐野市）

海を越えて広がるイワタニのフィールド。LPガスを産ガス国から輸入する調達業務では、サウジアラビア、アラブ首長国連邦やマレーシアとのFOB（本船甲板渡し条件）契約とイワタニが海運会社と傭船契約を結んでいるLPガスタンカー（約4万トン）の航行状況を熟知し、数多くの調整を重ねてコストと効率を追求しながらオペレーションを行います。また、スウェーデンからはプリムス社

のアウトドア製品を、カナダ・ドイツ・リトアニアからはビートモス（土壌改良材）を輸入するなどマテリアル、生活商品、機械関連商品を取り扱っています。アメリカでは日本向けのヘリウム輸出や、バルブ、鉱産物、焼成治具、カセットこんろ・カセットポンペを販売。オーストラリアではミネラルサンドメーカーを有する日本唯一の商社として、メーカーポジションでの事業展開を行って

ます。特に力を注いできた中国では、空気分離事業、炭酸ガス製造事業や金属コーティング事業を展開するなど、産業ガス、マテリアル分野をはじめとする事業拠点は40におよびます。溶材商品、溶接ロボット、通信機器の販売など、中国に代表されるアジアの著しい経済成長がイワタニのフィールドを広げており、海外での活動のウェイトが高まっています。

# 「世の中に必要とされる企業」であり続けるために 新たな価値の創出に努め社会に貢献していきます

1930年の創業以来、私たち岩谷産業株式会社は、様々な産業分野や人々の暮らしを支える総合エネルギー企業として、着実な発展を遂げてまいりました。当社の経営の根幹を成すのは創業者・岩谷直治が提唱した「世の中に必要なものこそ栄える」という理念です。当社では創業時より「社会から求められる使命・役割を果たすことこそが、自らの存在意義である」との認識のもと、この理念に基づく飽くなき探求と挑戦を続けてまいりました。

当社の基幹ビジネスであるLPガス事業は、1953年にわが国初の全国販売を開始して以来、日本人の暮らしを大きく変革してきました。現在では当社のLPガスは全国310万世帯の皆様の暮らしを支え続けるとともに、2011年の東日本大震災を契機に「災害に強い分散型エネルギー」として、改めてそのメリットが見直されています。さらに当社では、“ガス&エネルギー”のコンセプトのもと、様々な分野でLPガス・産業ガスに関する独自の技術・ノウハウを創造・蓄積し、機械、溶材、電子機器、マテリアル、食品など、幅広い領域で社会の発展に貢献しています。今後も産業と人々のライフラインを担う責任の重さを胸に刻み、全国のお客様に安心してLPガス・産業ガスをご利用いただけるよう、供給ネットワークのさらなる強化拡充に努めていきます。

一方で当社は「住みよい地球がイワタニの願いです」のスローガンをかけ、コージェネレーション、GHP（ガスヒートポンプ）、LNG（液化天然ガス）、太陽光発電など、地球環境保全と低炭素社会の実現に向けた様々な事業を推進しています。中でも、特に力を注いできたのが「水素」への取り組みです。地球温暖化問題やエネルギー資源枯渇への対策が、全世界的に緊急の課題であるなか、水素は次代を担う「究極のクリーンエネルギー」として期待を集めて

います。現在の化石燃料中心の社会は、将来的にはCO<sub>2</sub>の排出を最小限に抑制した「低炭素社会」に、さらに水素をエネルギーの中心に据えた「水素社会」へと、進化していくと予想されます。

こうした認識に基づき、当社は1978年に日本初の商業用液化水素プラントを稼働させ、以来、わが国における水素のトップサプライヤーとして、LPガス改質型燃料電池の実用化に向けた研究開発や、液化水素製造拠点などのインフラ整備を進めるとともに、国や地方自治体との協働による純水素型燃料電池の実証にも取り組んできました。

今後も水素の大量製造・大量輸送・大量消費時代を視野に入れ、使用場所・形態に応じて水素をより安全・安価・安定的に供給できるエネルギー事業者として「水素社会」の実現に寄与していく考えです。また、2013年4月に新たな研究開発拠点として中央研究所を開設しました。従来から蓄積してきたガステクノロジーをベースに最先端の各種分析機器、多彩な試験環境を整備しています。今後、「開かれた研究所」としてさまざまな顧客ニーズに対応し、技術のワンストップサービスを実現してまいります。

グローバル化、ボーダーレス化、高度情報化など、企業を取り巻く環境が大きく変化し続けるなか、今後は事業拡大とともに内部統制の強化やコンプライアンスの徹底など、企業として果たすべき社会的責任の遂行にもさらに注力し、これまで以上に「世の中に必要とされる企業」になっていきたいと考えています。

私たち岩谷産業グループは、これからも、すべてのお客様、株主の皆様、取引先、地域の方々、そして社員に新たな価値を提供し続け、“進化する総合エネルギー企業”として持続的な成長をめざしていきます。



代表取締役会長 兼 CEO

牧野明次

代表取締役社長

野村雅男



産業と暮らしの必要を  
4つの視点で支えます

地球からの贈り物である、ガス&エネルギー。  
イワタニは、この大切な資源を有効に活かすため、  
独自に培ってきた技術と販売網に資源を結集し、  
4つの視点から幅広い分野で展開しています。  
人と社会の明日に、必要なものを提案すること。  
そして、必要なものを使いやすく、さらに便利なものへ。  
それぞれの分野が、お客さまの課題解決のために、  
最もふさわしい必要を届ける。  
産業や技術のそばに寄り添うパートナーとして、  
企業の発展と人々の暮らしに貢献していきます。

Business  
Field

総合エネルギー  
産業ガス・機械  
マテリアル  
自然産業

## 暮らしと社会を見つめ 届けるべきものを見いだす

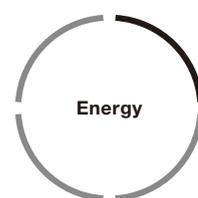
伊ワタニは、LPガスを安心・安全にご利用いただくために、  
輸入からご家庭へのお届けまでの独自の一貫したネットワークを駆使し、  
安定供給を行っています。

さらに、水素をはじめとした新エネルギーの実現にも努めています。



堺LPG輸入ターミナルに着積したLPGタンカー（大阪府堺市）

# 総合エネルギー



産ガス国から、ライフラインとなるエネルギーをつなぎます。



### LPガス(海外輸入)

イワタニはLPガスの磐石な供給体制の確立をめざし、1980年サウジアラビアとの間に石油メジャーなどを介さない直接輸入契約を締結。1981年より輸入を開始し、現在ではUAEやマレーシアなど中東・アジアの主要産ガス国へと輸入ソースを拡大。国際情勢など

のリスクにも左右されにくい強固な供給体制をつくりあげ、自社備船によって安全かつ安定的に国内に送り届けています。家庭用から自動車燃料、産業用へと、ますます多様化するニーズに応えながら、イワタニは日本社会への安定したエネルギー供給を担っています。



### LPガスインテグレーション(国内供給)

産ガス国から台所まで。イワタニはLPガスの輸入安定化に取り組むとともに、国内での安全で効率的な備蓄・供給体制づくりを推進しています。堺LPG輸入ターミナルをはじめ、二次、三次基地の整備・統合を通して、ご家庭までの供給ネットワークの強化を進めています。



### 暮らしのエネルギー **Marui gas**

プロパンガス普及の時代から、豊かな暮らし提案の時代へと市場環境が変化するなか、1993年に発売40周年を迎えたイワタニのLPガスブランドを「マルキプロパン」から「Marui gas」へと一新。国内最大となる1400の特約店ネットワークを活かして「供



給から提案」へ事業体質の改革を進めています。「生活者に選ばれるエネルギー」をコンセプトに、より地域に密着したニーズ開拓を進め、いまや都市部から島しょ部まで全国310万世帯に供給。豊かな暮らしを支えながら、安心と安全もお届けしています。



### バルク供給

LPガスの大容量供給システム「バルク供給」。専用のバルクローリー（ポンプ付ローリー車）から貯槽に直接ガスを充てんすることで流通を合理化し、顧客利便性を向上。ご家庭から大型施設まで、さまざまな場面でLPガスの設置が進んでいます。

環境に根ざした技術力で、安全で安心な毎日を支えます。



### 独自の保安統一基準

安全確保、それは伊わたにが自らに課した事業開始当初からの命題です。長年にわたり全社で蓄積した膨大なノウハウは、独自の保安統一スタンダード (ISS:Iwatani Safety Spec) に体系化され、社内およびお客さまの安全管理の標準として活用されています。



### LPガス消費の安全を見守る

ガスを安全に使える消費環境の確立をめざして、1987年、通信回線による24時間監視システム「テレセーフ」を開発。お客さま宅に設置したホームターミナルと、センターのコンピューター管理システムを電話回線で結び、家庭でのガス漏れや燃焼器具の長時間使用

などを監視します。緊急情報を察知すると、お客さまへの連絡と同時に担当販売店に通報し、家庭での事故を事前に防止する優れたシステム。24時間365日、東西2ヶ所のテレセーフセンターにて、お客さまの安全を守りながら更なる信頼強化に努めています。

### 安全・安心の追求

1969年、日本初の家庭用ガス漏れ警報器「みはり」を発売。2002年には、火災・不完全燃焼・空気の汚れを感知する「トリプル警部」、2010年には防犯・防災システムも備えた「マップピーセーフ」へと進化し、安全・安心の新たなお客さまサービスを追求し続けています。



### W発電 (エネファーム × 太陽光発電)

W発電は、家計と環境にやさしいクリーンな「創エネ」システム。LPガスから水素を取り出して発電し、その余熱を回収して給湯や暖房などに利用する家庭用燃料電池「エネファーム」と、太陽電池による「ソーラー発電」を組み合わせることで家庭のエネルギー

効率を飛躍的に高め、電力のピークカットに貢献しながら、年間のCO<sub>2</sub>排出量も大幅に削減。このエネファームとソーラー発電の組み合わせによるCO<sub>2</sub>削減量は年間約4.2t。一般家庭の平均排出量のおよそ80%に相当する削減効果を発揮します。



### セルフステーションα

実用的なクリーンエネルギー車の代表選手、LPガス車。その燃料供給インフラである「セルフステーションα」は、LPガスの蒸気圧を利用したポンプフリー方式により、省スペースで高い実用性を備え、地域でのLPガス車普及に安定的な役割を果たしています。



### 分散型エネルギーとしての強みに評価高まる

LPガスは「災害に強いエネルギー」としてだけでなく、電力系統やガス導管による「集中型エネルギー」には無い「分散型エネルギー」としての強みにも評価が高まっています。また、全国106ヶ所に及ぶ供給拠点のうち、災害発生時にもLPガスの出荷が行え

るように、基幹拠点となる充てん所を最優先で設備強化し、災害に備えています。また、東京本社にはLPガスによる空調設備（GHP）を導入し、節電要請にも対応。様々な社会の要請に柔軟かつスピーディーに応えます。



### 高機能ガス機器

汚れにくく、お掃除簡単、しかも省エネ・高機能な「ガラストップこんろ」。熱効率が高く、床暖房や浴室暖房乾燥機までこなす高効率給湯器「エコジョーズ」など、イワタニがお届けする最新のLPガス機器には、便利で快適な生活を送るための技術が満載です。



### Marui ムティ

全国の「Marui Gas」ご利用世帯に毎月お届けする情報紙「Marui ムティ」は衣・食・住・遊などの暮らしの情報に加え、環境・防災・防犯の知識も紹介。お客さまと販売店との双方向の情報交流を通して、よりよい暮らしづくりのお手伝いをしています。



### 非常用LPガス発電機

災害に強い分散型エネルギー、LPガスの利点を生かし、非常時の必要電力をまかなうための「LPガス発電機」を提案。公共施設、防災マンションなどの重要施設において、万一の災害時にもガスと電気を安定的に確保することができます。



### ガスヒートポンプエアコン（GHP）

ガスエンジンで冷媒を循環させ、消費電力を抑えながら効率よく冷暖房を行う「GHP」。ガスエンジンで発電し、廃熱を給湯や暖房に有効利用する家庭用コージェネレーションシステム「エコウィル」。LPガスを生かした「省エネ」と「創エネ」はイワタニのテーマです。



### 動くこども110番活動

日頃お世話になっている地域への社会貢献活動の一環として、グループでは「動くこども110番」活動に取り組んでいます。この町の子どもたちは私たちが守る。そんな思いで、営業車や配送車で業務を通じて、犯罪抑止に貢献しています。

新しいエネルギーで、循環型社会を実現します。



### LNG(液化天然ガス)

天然ガスを液化したLNGは、窒素酸化物(NOx)やCO<sub>2</sub>の発生が極めて少なく、石油に替わるクリーンな代替エネルギーと期待されています。伊ワタニは、関西電力(株)との合弁によるエル・エナジー(株)の設立など、より安全で安定したLNG供給体制を構築しています。

### LNG 地域導管事業(都市ガス事業)

LNGの可能性を地域のエネルギーインフラに生かす。そのモデルとして電力会社、ガス会社と共同で進めているのがLNG地域導管事業です。滋賀県に設立された甲賀エナジー(株)では関西電力(株)堺LNGセンターから輸送されたLNGから「都市ガス(天然ガス)」

を製造し、民生用には地元の甲賀協同ガス(株)を介して、産業用には直接供給する仕組みを構築。暮らしから産業まで、より安全でCO<sub>2</sub>排出の少ない「天然ガス」の利用環境を大きく広げる試みとして、地域でのノウハウと実績を積み上げています。



### DME(ジメチルエーテル)

ヨーロッパを中心に普及が進むクリーンディーゼル車。その次世代燃料として期待されているのが、天然ガス、石炭、バイオマスなどから精製されるDME。伊ワタニはDMEとLPガスとの混合燃焼試験等を行い、実用化に向けた環境整備を着々と進めています。



### コージェネレーションシステム

ガスエンジンやタービンで自家発電を行い、その際に発生する排熱エネルギーを、冷暖房などに利用するシステム。家庭用から大型施設まで、電力と排熱の利用規模や用途などに合わせて、エネルギーを効率利用するシステムとして広いニーズに対応しています。



### 全国でエネルギーセミナー開催

ガス&エネルギー事業で蓄積した総合的なノウハウを活かしたソリューションを、セミナーを通じてお客様に提供。重油からLPガスへの燃料転換を提案し、省エネによる取引先企業のコスト低減とCO<sub>2</sub>削減による地球環境保全の両立をめざした取り組みを進めています。

豊かさと健やかさを、生活のすぐそばにお届けします。



### カセットガスとその使用機器

独自の発想で暮らしとイワタニの接点を広げる「カセットガス」使用機器。1969年発売のホースノンこんろ「カセットフー」は家庭からレジャーの分野にまで需要を拡げ、欧米、アジアにも供給するロングセラー商品に成長。その可能性をさらに広げる商品として、

本格的なバーベキューが楽しめる「カセットガスバーベキュー グリルステーション」や、「カセットガスストーブ」を発売。常にガスと暮らしを見つめる—そのすべてにLPガスのハンドリング技術を追求してきたイワタニのノウハウが活かされています。



### イワタニ アイコレクト

家庭用品、健康食品、アウトドアグッズから産直グルメなどを、暮らしの提案とともにお届けする総合ショッピングサイト「イワタニ アイコレクト」。震災などの災害時には品薄となった必需品を素早くお届けする体制を整え、暮らしの安心を支えます。



### バナジウムの恵み 富士の湧水

自然豊かな富士山北麓より採水した、「バナジウム」を多く含む天然水が「富士の湧水」です。最新の製造工場での徹底した品質管理、そして使いきり容器で空気にふれにくい「D-バック方式」で、採水地からお客さままで安全にお届けします。

### ミネラル保湿化粧品「fujina(フジナ)」

富士山のミネラルとエイジングケア（年齢に応じた手入れ）のための高濃度美容（保湿）成分を配合した化粧品です。肌の角質層まで浸透し、乾燥肌の原因であるミネラル不足を補いながら、キメを整え、潤いに満ちたハリ・ツヤのある美肌へと導きます。



### 生活用品

食品を粉末やジュース、ペースト状にして、栄養を丸ごと料理に生かす粉末調理器のパイオニア「ミルサー」シリーズや、スウェーデンのプリムス社との合弁による様々なアウトドア商品もお届けしています。イワタニは健康を台所からだけでなくアウトドアからも考えています。



### アララシリーズ

主成分を生分解性の高い天然ヤシ油にこだわり、生活排水のクリーン化に貢献する家庭用洗剤「アララシリーズ」。環境だけでなく、手肌にもやさしい天然由来のブランドとして衣類から台所洗剤、バスソープにまでラインアップを広げています。

## 産業界のその先を ガスと技術で切り拓く

伊ワタニは、酸素・窒素・アルゴンなどの空気分離ガスのほか、  
極低温でのハンドリングが必要な液化水素やヘリウムなど、  
多岐にわたる高圧ガスで産業をサポート。  
ガス技術の応用を通じて、さまざまな分野での  
ソリューションに挑み続けています。

出荷中のヘリウムコンテナ (兵庫県神戸市)

# 産業ガス・機械



## ガス供給の基盤を固め、産業のニーズに応えます。



### 空気分離ガス

液化した空気から沸点の差を利用して取り出す酸素、窒素、アルゴンは、半導体製造や医療をはじめ様々な分野に広く貢献しています。イワタニはセパレートガスの生産・供給体制を全国規模で拡充し、安定供給体制を構築しています。



### 水素のパイオニア

イワタニは日本の水素技術のパイオニアとして、1958年からその開発と普及に努めてきました。その過程で、従来の圧縮水素に比べ運搬効率が12倍という「液化水素」の可能性にいち早く着目し、2006年に大阪府堺市に液化水素とセパレートガスの製造を目

的とした次世代型併産プラント「ハイドロエッジ」を、2009年には千葉県市原市に東日本初の液化水素製造プラントを設立。また、2013年、山口県周南市に国内3ヶ所目の液化水素製造プラント「山口リキッドハイドロジェン」が稼働しました。

### オンサイト供給

オンサイト供給とは、ユーザーの敷地内にガスプラントを直接設置してガスを生産・供給するシステム。ニーズ或使用条件にあわせた最適な設備をユーザーのプラント内に組み入れることでより効率的な生産システムの構築が可能となります。



### ヘリウムのトップサプライヤー

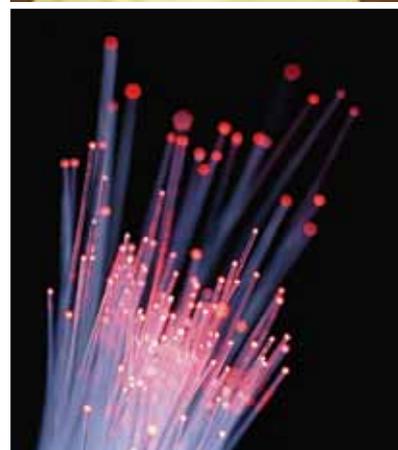
ヘリウムの、沸点マイナス269℃という極低温特性を生かし、極限技術の応用分野に深く関わっています。イワタニは従来の米国からの輸入に加え2013年から、カタールで生産されるヘリウムのうち、国内需要の半分に及ぶ年間800万m<sup>3</sup>の直接輸入を開始。また、

大阪市住之江区に国内最大級の供給拠点「大阪ヘリウムセンター」を設立。つくば、横須賀、大阪、福岡の国内4拠点に加えて、現在推進中の中国、東南アジアでの拠点整備により、需要の拡大が続くヘリウムの安定かつ効率的な供給を実現します。

### グローバル事業展開

産業ガス分野では、中国大連地区で空気分離事業を行い、華東(上海)地区では空気分離・炭酸ガス製造を行っています。また中国・東南アジアでの販売網を拡充。併せて、溶接ロボットなどの機械分野でも販売体制の強化を図っています。

ガスの可能性と創造性で、あらゆる課題に挑みます。



### 水素・液化水素

燃料電池や半導体製造、ロケットの燃料など、環境・ハイテクをはじめ様々な分野で利用される「水素」。液化水素はその環境性の高さから、石油に替わるクリーンエネルギーとして社会を変える力を秘めています。イワタニは、産業用途の液化水素供給を日本で

初めてスタートさせた「ハイドロエッジ」や、工場で発生する副生水素をパイプラインで供給、水素エネルギー社会をモデル化した「北九州水素タウン」など数々のプロジェクトや社会実験を通して、水素社会のインフラ整備を進めています。

### ヘリウム

ヘリウムは、世界6ヶ国でしか産出されない貴重な資源ですが、ハイテク・医療・宇宙などの分野に不可欠な材料として世界的な需要拡大が見込まれており、安定確保は先端産業育成の重要課題です。イワタニは国内トップサプライヤーとして、安定供給に努めています。



### 新ガス開発へのチャレンジ

「必要なら探す、なければ創る」。業種や分野の垣根を越え、お客さまの課題を徹底的に共有し、不可能を可能にする。それがイワタニの「新ガス開発」の視点です。高濃度オゾン分野では、不可能とされていた50%以上の高濃度オゾンの製造・貯蔵技術を確立

し、半導体製造の分野などに応用。半導体製造用クリーニングガスのスタンダードとなったC<sub>2</sub>F<sub>3</sub>（三フッ化塩素）によるノンプラズマクリーニングもイワタニが独自に開発した技術です。溶断・溶接用ガスでは、アセチレンに替わる安全な溶断ガス「シャープガ

ス」、溶接用シールドガスのほか、水素ベース溶断ガス「ハイドロカット」など、新ガス開発を推進。また、安全性、低燃費、環境性能などに配慮したタイヤ充てん用ガス「MIX-GT」「N<sub>2</sub>-GT」など、新たな分野でもガスの可能性を切り拓いています。



### 冷熱利用

気体から液体、固体へとガスを自在に制御する技術は、様々な用途に応用できます。イワタニは様々なガスの特性を生かし、食品の凍結粉砕や急速冷凍をはじめ、医療・環境・ハイテク分野まで、多様なニーズに最適なソリューションを提案します。



### 環境良品の開発・提案

ガスの無限の可能性を、様々な分野の課題解決に応用するため、イワタニはメーカーの「技術力」と商社の「提案力」というふたつの強みを生かし、環境問題の解決・緩和・影響低減を考えた商品「環境良品」の開発と提案を強化。フロンガスに替わる自然冷



媒「エコフリーズ」や、ドライアイス直径6mmほどのビーズ状に加工して冷却効率を高め、保冷輸送の省力化に貢献する「ビーズドライアイス」の実用化など、ガスのポテンシャルを多様な視点で応用し、分野を越えた環境課題に挑んでいます。



### 医療用ガス

酸素、窒素、炭酸ガスなど、命の現場を支える様々な医療用ガス。イワタニは医療施設の特長や規模に応じたガス環境の整備から、安全な使用に向けた「医療ガス安全講習会」の実施にいたるまで、包括的なサポートを提供しています。



### 炭酸ガス・ドライアイス

化学・鉄鋼メーカーなどから発生するオフガスを回収・精製し再利用する炭酸ガス・ドライアイス事業は、環境負荷を低減しながら新たな価値を生む「創造性」に満ちています。イワタニは溶接用をはじめ、ビールなどの炭酸飲料用、食品の冷却・冷凍輸送用、ダム



建設時のアルカリ排水の中和用、静菌効果を生かしたポストハーベスト農薬用、ペレット状ドライアイスによるプラスト洗浄用など、様々な領域で新たな可能性を追求。ガスのソリューションパートナーとして、更なる用途開発に取り組んでいます。



### 半導体ガス供給

半導体メーカーとの協働による独自の新ガス開発を推進。そして、半導体製造工程の材料ガス、雰囲気ガス、クリーニングガスをトータルに供給。また毒性・可燃性ガスを安全に管理するため、ガス供給装置と配管システムの一体施工を行っています。



### 低温機器製造

お客さまへの安定供給には、極低温の液化ガスの安全な輸送と貯蔵の技術が不可欠です。イワタニは酸素、窒素、水素などの低温液化ガスの貯蔵・運搬のノウハウを生かし、貯槽やタンクローリーなど低温機器の製造・販売事業を展開。品質・コスト面での競争力を飛躍的に高め、スケールメリットや製造工法の見直しにより製造コストを大幅に削減。液化水素をはじめ、極低温ガスメーカーとして培ってきた低温技術を基本に、より適切な輸送方法、貯蔵方法、供給設備を提案し、合理化に貢献します。

環境保全からメカトロニクスまで、ガスの多様性を追求します。



### 半導体製造装置

半導体製造の分野では、各工程を総合的にとらえた高度なワンストップソリューションを提供。その範囲は設備・システムにとどまらず、最先端マテリアルを用いたパッケージの提案など、綿密なサポートや、幅広いコンサルティングにまでおよびます。



写真中央の青色部分が高濃度オゾン

### RFタグによる容器管理のIT化推進

高圧ガスのシリンダー管理は物流合理化、保安強化の観点から業界全体の重要課題とされ、現在日本産業・医療ガス協会の統一規格によるRF (ID) タグ管理への移行が進められています。遠隔での個体識別が可能なこの技術にいち早く着目したイワタニは、

容器回転率の向上や放置・不明容器の把握機能を強化した自社管理システムを構築し、さらにその機能とデータベースをクラウドコンピューティングによってネット上から販売店に提供する「瓶豪(びんごう)」システムをリリースしています。

### WINSUT(ウィンサット)

イワタニが独自開発した「WINSUT」は50%以上の高濃度オゾンによって半導体製造設備や配管金属表面を不動態化させ、ガスに対する耐食性を向上。デリケートなデバイス製造現場でのパーティクル発生を著しく低減し、使用後のオゾンは無害な酸素へと変わります。



### ガス回収装置

消火用ガスの「ハロン」は、オゾン層破壊物質であることから製造禁止となりましたが、消火能力や安全性に優れ、現在も多くの施設で使用されています。このハロンガスの回収・充てん設備を兵庫・埼玉の2拠点に設け、回収・充てん需要に対応しています。



### PFC燃焼除害装置「ダイナガードF」

半導体業界からの強いニーズに対応し、世界に先駆けて開発したPFC燃焼除害装置「ダイナガードF」は、国際的な削減対象となっている地球温暖化ガス「PFC」を強制燃焼によって効率的に分解することに成功。イワタニの環境技術の一端を担っています。



### LN<sub>2</sub>コンクリートクーリング

ダムや橋脚の建設に使われるコンクリートは、温度が高いとひび割れが増えるなど品質低下のリスクが高まります。打設前の生コンクリートを液化窒素冷却することによって固化後のひび割れなどの発生を抑え、品質向上を実現します。



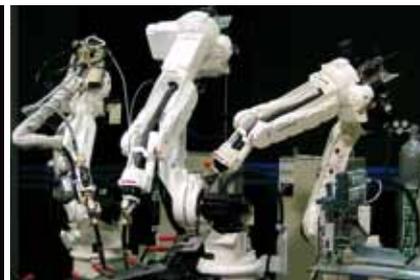
### 電子部品製造装置

スマートフォン、タブレット端末などのキーデバイスである最先端電子部品の製造にかかわる工程設備を一貫ラインで提供。伊ワタニは、今後ますます進展する「微細化」「高機能・高性能化」のニーズに応え、提案力の強化を進めています。



### 溶接・溶断・産業用ロボット

新たな技術開発と顧客サポートの拠点として「溶接デモンストレーションルーム」を中央研究所に設置。溶接用ガスの供給だけでなく、シールドガス等の研究開発、デモサンプル評価試験、ユーザーからの溶接試験や教育育成の受託。ワイヤ、溶接機、ロボットメー



カーとのタイアップによる総合的なシステムソリューションの提供など、サポート&コンサルティング機能を強化。さらに、溶接・切断・塗装・研磨など一連の工程にロボットアプリケーションを提供するシステムオーガナイザーとして新たなステージに挑んでいます。



### 総合プラント防災システム

ガスの「保安」のエキスパートとして、エリアごとに安全を見守る「総合プラント防災システム」。センサーによる多角的な安全監視、化学薬品や可燃性ガスなどの防火・消火からテロ対策に至るまで、伊ワタニが培った危機管理ノウハウが活かされています。



### FAシステム

伊ワタニは、独自のノウハウで様々な製造現場の合理化・効率化を支援。汎用性の高い工作・板金機械、独自性の高い板金・溶接専用機、粉末成型装置、電子部品製造装置、各種組立・検査装置、物流システムなど、幅広いソリューションを提案します。



### 排ガス処理装置

伊ワタニは、あらゆる産業の製造プロセスから発生する腐食性ガス・臭気を効率よく確実に除去し、作業環境はもちろん地球環境保全に貢献しています。特に臭気対策においては、顧客ニーズに合わせた最適提案に向け、幅広いノウハウを蓄積しています。



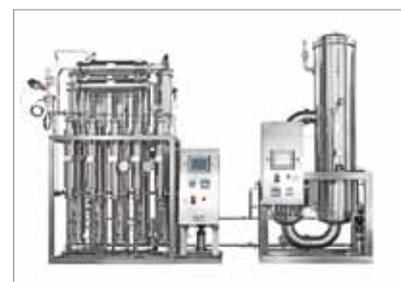
### バイオガス再利用システム

バイオガスは生物由来で実質的なCO<sub>2</sub>排出がなく、再生可能なクリーンエネルギーとして期待されています。このバイオガスを天然ガス車や燃料電池車などに利用する「バイオガス再利用システム」は、資源リサイクルの視点からも有用な取り組みです。



### VOC 回収装置

半導体、液晶、自動車業界等幅広い分野で、健康や環境に悪影響を及ぼす揮発性有機化合物 (VOC) の排出が問題となる中、様々な排出環境や条件に対応したVOCの回収や除害処理のトータルソリューションを、日本、中国、東南アジアにまで提案しています。



### 医薬システム

医療サービスの高度化に対応した最新の「医薬システム」を医薬品製造の現場に向けて提案。蒸留水や無菌純水などの精製水関連機器から充てん関連機器、各種検査システムなど多岐にわたる製品を、高度な技術サポートとともに提供します。

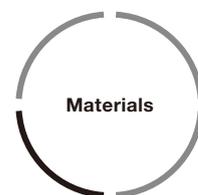


## ニッチ市場は小さいとは限らない 素材から大きく育てる

イワタニは、ミネラルサンドをはじめ、  
海外における資源開発への投資、  
環境や医療、精密部材などの取り組みを中心に、  
素材から多種多様な産業ニーズに応えています。

ミネラルサンドの荷役（愛知県名古屋市）

# マテリアル



## 資源開発と用途開発で、新しい市場を開拓します。



### ミネラルサンド・鉱産物原料

プラズマパネル用硝子 (PDP)、半導体研磨材、セラミックス、耐火物の原料として使用されるジルコンおよび顔料、溶接材料の原料として使用されるチタン原料、これらのミネラルサンドの取り扱いは、長年にわたり国内トップシェアを誇ります。耐火物業界、顔

料業界や電子材料業界などの幅広い分野で使用される鉱産物原料を中国やオーストラリアなど様々な国から日本へ輸入販売。アドバンスド・セラミックス分野へもフィールドを拡げ、時代が要求するニーズに的確にお応えしています。



### ステンレス・アルミ・高合金

国内ではイワタニステンレス会を中心に全国規模で加工・在庫・流通のネットワークを構築。ユーザーの細やかなニーズに対応すべく、機動力を発揮できる体制を確立しています。また、海外では電力・ガス・化学プラント向け高合金の販売に注力しています。



### 金属加工品

中国・東南アジアを中心に製造工場を設立し、メーカーポジションへの展開を進めています。今後さらに伸張する自動車や家電、電子部品関連業界をはじめ、多岐にわたる分野に金属加工品を開発・提案・供給しています。



### 合成樹脂原料・機能樹脂製品

中国、東南アジアに張り巡らせたネットワークを通じ、国内外で合成樹脂原料ならびに樹脂製品を展開。植物由来のバイオマスPETや太陽電池関連の機能性フィルムなど、高まる地球環境保護や変化する市場ニーズを的確に捉え、商材開発に取り組んでいます。



### セラミックス原料・成型品

触媒や電子関連を中心に様々な分野へレアアース・ジルコニア化合物などのセラミックス原料の供給およびそれらセラミックス原料を使用した成型品の販売を行っています。さらには、将来の成長が期待されるナノサイズの新たな新素材の開発にも取り組んでいます。



### 電子・ディスプレイ関連事業

国内外に金属、機能性フィルム、電子セラミックスの加工拠点を有し、多岐にわたる電子関連分野のニーズに対応。成長著しいスマートフォン、タブレットPCやリチウムイオン二次電池等の原料や部材を中心に独自ブランドによる新商材開発も行っています。

## 自然の豊かさを 暮らしの品質に変える

イワタニは、食の生産者、そして食卓の消費者にも貢献。

営農や畜産のサポートをはじめ、

野菜や果物など冷凍食品の輸入、健康補助食品の開発まで、

安全かつ安心なものだけを提供しています。

食品冷凍倉庫での検品 (神奈川県川崎市)

# 自然産業



生活の視点で発想し、農業からアプローチします。



食品

“いいものを、いつでも、たっぷり”この理念をもとに、暮らしをより豊かに、より美味しく彩るのがイワタニの“食”のブランド「フーズランド」。日本国内はもとより、世界各国から旬の逸品素材を提供しています。冷凍野菜からスタートしたこの事業も、現

在では和惣菜などの野菜調理品をはじめ、畜肉調理品、水産加工品、パン・デザートを含めた冷凍食品まで、商品ラインアップも一段と充実。業務用から家庭用まで、日本の食卓に安全・安心とおいしさをお届けしています。



畜産

日本人の嗜好にあった肉質と高い繁殖性をめざして開発したハイブリッド種豚「ケンボロー」をイワタニ・ケンボロー(株)および全国3ヶ所の契約原種豚農場で生産。種豚の販売とあわせて飼養管理技術の提供、最新養豚システムを提案しています。



健康食品

ガスのイワタニならではの、液化窒素を使った超低温凍結粉碎技術で素材の良さをそのまま生かした「活緑青汁」「胡麻豆腐の素」「スポリキE」「麻布小銭屋すっぽんスープ」。イワタニの地域ネットワークが発掘したヒット商品「重久盛一・玄米黒酢」シリーズ。

コラーゲンに加えリュウゼツランから採取した天然の食物繊維アガベイヌリンを配合した「エフコラPLUS」など、ヘルス&ビューティーのニーズに応える多彩な商品を展開。“食”を通して健やかな暮らしを、おいしさ・安心・安全とともに提案しています。

総合衛生管理サービス

国際衛生(株)では、くん蒸剤等による防虫管理業務、害虫駆除剤の開発・製造に加えFSSC、AIBなど、食品安全規格に準拠したコンサルティングを実施。混入異物の分析、有害生物管理やHACCP手法による製造環境の改善等「一歩進んだ環境づくり」を提供します。



植物工場

清潔で作業性の良い「土を使用しない養液栽培」と光合成に必要な炭酸ガスの濃度制御、ヒートポンプ等による温度制御により、野菜の生育に適した栽培環境を提供。これからの日本の安全・安心な野菜づくりに向けて、新たな事業モデルを提案します。

アグリバイオ

農業のシステム化を通して生産性の向上をめざすアグリバイオ事業。土壌改良材「ピートモス」の輸入や、「イワタニプラグシステム」「イワタニサブストシステム」、果物の追熟を促す「イワタニネオケープシステム」など、人の経験と勘に頼ってきた農業のシステム化を進めています。

アルフロック

「花き」の物流に伴う頻繁な積み替え作業の解消に向け、専用物流台車「アルフロック」による一貫輸送という新発想を導入し、産地から市場まで花を傷めず迅速に供給。いま全国で稼働する約4万台のアルフロックを核に、「花き物流」の標準化が進められています。

A group of children are running happily across a vast, green grassy field. The children are in the middle ground, running towards the camera. The field is dotted with small white flowers. In the background, there is a dense line of green trees under a bright, slightly overcast sky. The overall scene is bright and cheerful, suggesting a park or a recreational area.

住みよい地球が  
イワタニの願いです



創業者の岩谷直治はダーウィンの進化論から、  
人はもちろん、企業も自然の一部だと考えました。  
そして生まれた、自然を敬い、その摂理を重んじる「循環の思想」。  
イワタニは、この想いをいまに受け継ぎ、  
地球環境と地域社会の結び目となって、  
教育、文化、スポーツの支援にも力をいれています。  
もっと、自然と人間が向き合えるように働きかけること。  
これもまた、住みよい地球づくりの大切な取り組み。  
自然に生かされる以上に、自然に還していく活動を、  
次の世代、さらに次の世代へと、つないでいきます。

生み出すだけでなく、  
世の中に還していきます。



### 岩谷直治記念財団

人の幸福と社会の発展を願い、創業者 岩谷直治が私財を投じて1973年に設立。ガス・エネルギー分野への研究助成、アジアからの留学生支援、若者たちの国際交流支援を柱に社会貢献活動を展開。岩谷直治記念賞をはじめ、科学技術への助成や留学生への研究支援など、人と社会に寄与しています。

### イワタニグループ環境憲章

企業スローガン「住みよい地球がイワタニの願いです」の主旨に基づき、1998年に制定。あらゆる事業活動の根底にその理念を生かし、循環型社会の実現を推進しています。環境負荷の低減を通して世界の発展に貢献する企業グループとして、様々な分野で実践的な活動を行っています。

ふれあいから生まれる、  
エネルギーがあります。



### NHK 交響楽団への事業協力

「交響管弦楽により、わが国の音楽芸術の向上発展を図り、その社会文化使命を達成する」というNHK交響楽団の主旨に賛同し、1987年から特別協賛企業として「N響“夏”」を中心に、地方公演やN響メンバーと若手音楽家が会えるコンサートに協賛。音楽を通じ、地域と文化のふれあいに貢献しています。

### 鳥人間コンテスト

人力飛行機で飛距離を競う鳥人間コンテスト。そのコンセプトが、クリーンエネルギー社会をめざす当社の事業方向性と合致することから、創業80周年の記念事業として2010年より特別協賛を始め、大会運営をサポート。住みよい地球をめざし、環境イベントへの支援も積極的に行っています。

企業市民として、人と自然の  
未来を見つめます。



### Marui gas 災害救援隊

災害時にいち早く現地に駆けつけ、LPガスの復旧やガス機器の安全点検を行う全国組織「Marui gas災害救援隊」。2011年の東日本大震災では発生後、いち早くLPガス容器320本と生活支援物資を携え現地に急行し、イワタニグループ震災支援の先陣として活動しました。

### Marui gas 災害救援隊全国一斉訓練

1995年の阪神淡路大震災を期に、その翌年に「Marui gas災害救援隊」が活動を開始。毎年10月に「Marui Gas防災の日」を設け、災害発生時を想定した「安否確認訓練」や「出動準備訓練」等、エリアの特性に応じたより実践的な訓練内容にて、全国で一斉訓練を実施しています。



### 水素エネルギー社会実現に向けて

「水素エネルギー」の普及に向けて、(株)ハイドロエッジをはじめとした生産・供給体制を確立。それと並行して水素ステーションや燃料電池車の走行テストなどインフラ整備に向けた社会実験や、イベントによる啓発活動など、多面的な取り組みを通して水素エネルギー社会の未来を牽引しています。



### 教育文化振興支援

新しい時代の技術を、次の世代へとリレーしていくことも、未来を拓くイワタニの責任です。水の電気分解やおもちゃの水素自動車を使った実験を通して子どもたちに水素エネルギーを体感してもらう活動の一環として、青少年のための科学の祭典「サイエンス・フェスタ」にも協賛しています。



### 新たな技術拠点 中央研究所が稼働

商社としての「情報力」とメーカーとしての「技術力」を融合し、ガス&エネルギーの新たな可能性を追求するイワタニ。ガス・エネルギー・マテリアルの基礎研究および技術開発、さらに用途開発、製品開発までを行える「中央研究所」を建設し、2013年4月より営業開始。新たな価値創造に挑みます。



### アジア各国の溶接技術向上に貢献

発展著しいアジア各国の溶接技術向上を目的に、1997年から10年にわたり中国・大連市で溶接技術セミナーおよび溶接コンクールを開催。以降、2007年にはベトナム・ハノイで、2013年からはインドネシア・ジャカルタにて溶接セミナーを開催するなど、積極的な取り組みを行っています。



### 教育制度 琵琶湖コンファレンスセンター

日本で最初の米国コンファレンス協会認定施設「琵琶湖コンファレンスセンター」を活用し社員研修や実践トレーニング、各種セミナーや資格・研修制度を充実。「人づくりのイワタニ」のノウハウが集約された施設と、豊かな環境はグループだけでなく一般企業・団体にも開放されています。



### 全国小学生作文コンクール

創業80周年記念事業として2010年にスタートした「住みよい地球～小学生作文コンクール」は、私たちが掲げる「住みよい地球がイワタニの願いです」の想いを、未来を担う子ども達とともに考えようという試み。気づきと発見に満ちた子ども達の「ことば」を未来につないでいきます。



### サウジアラムコ・岩谷産業 緊急災害時LPガス支援基金

日本国内での大規模災害時におけるカセットこんろとカセットボンベの無償提供を目的に、サウジアラビア国営石油会社「サウジアラムコ」と共同で支援基金を設立。東日本大震災発生時には基金総額を200万ドルに倍増し、カセットこんろ21,680台、カセットボンベ12万本を提供しました。



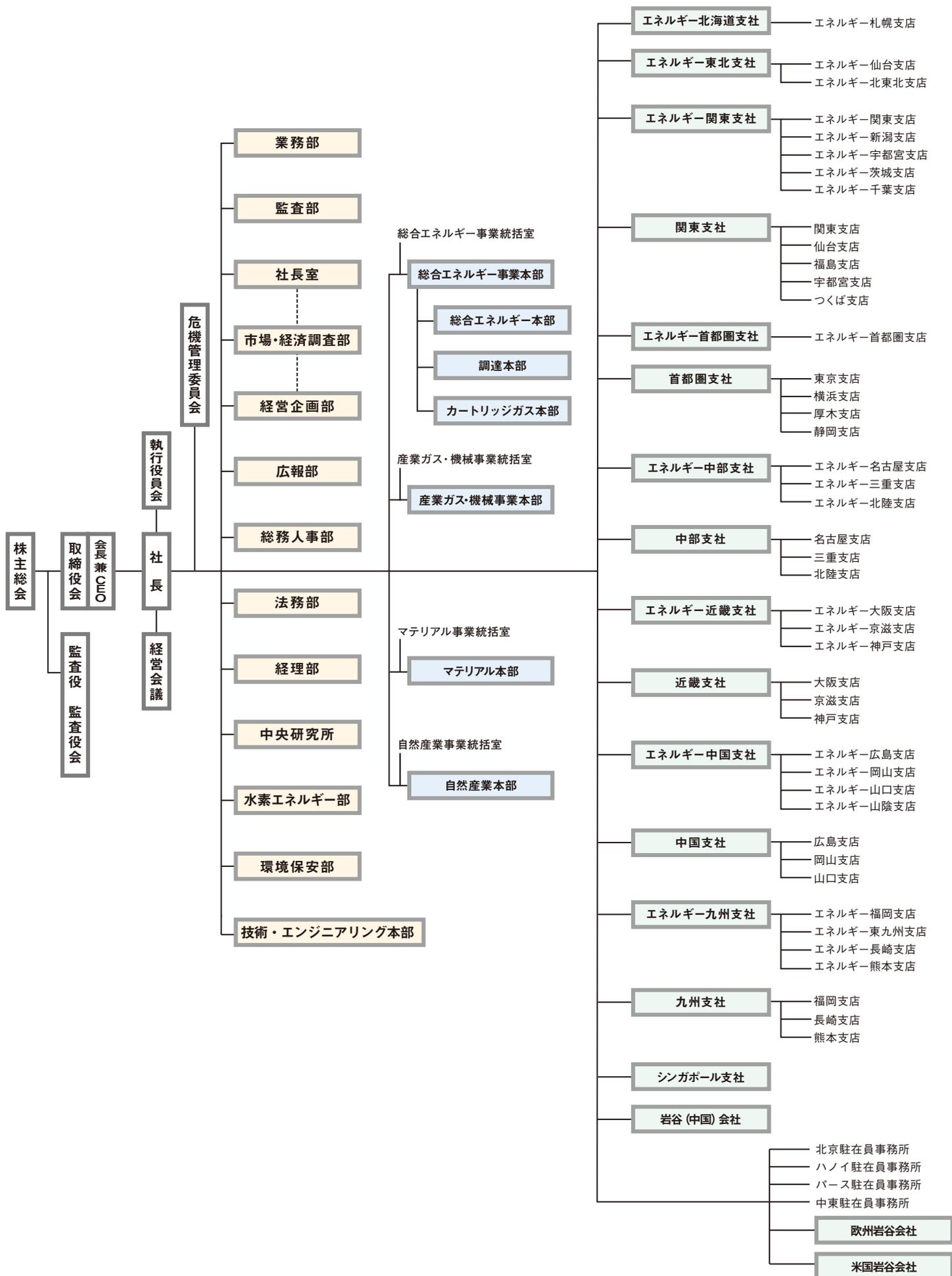
### 製造業のためのエネルギーセミナー

重油などを使用している工場を対象に環境負荷の少ないLPガスや天然ガスへの燃料転換や、太陽光発電などの導入による省エネ化について提案する「製造業のためのエネルギーセミナー」を2009年以降全国各地で開催。これからも「住みよい地球」を目指した様々な提案を行ってまいります。



### 東京本社・中央研究所の壁面緑化

植物の生育を助け、施工や維持管理も容易な都市緑化システム普及に向けた取り組みの一環として、東京本社及び中央研究所の壁面を緑化。数種の植物を組み合わせた緑化システムは大気の浄化効果が期待されるとともに、都市景観にも豊かな潤いを与え、道行く多くの人々の目を楽しませています。



## 会社概要

商号／岩谷産業株式会社

設立／1945(昭和20)年2月2日

創業／1930(昭和5)年5月5日

代表者／代表取締役会長 兼 CEO 牧野 明次

代表取締役副会長 渡邊 敏夫

代表取締役社長 野村 雅男

## 会社沿革

1930(昭和5)年	大阪市港区に岩谷直治商店を創業し、酸素・溶接棒・カーバイドの販売に取り組む。	2004(平成16)年	執行役員制度を導入。新潟県中越地震被災地にカセットこんろとガスを緊急出荷し、合わせてMarui Gas災害救援隊を派遣。
1945(昭和20)年	資本金19万8千円で岩谷産業(株)を設立。創業者岩谷直治が社長に就任。	2005(平成17)年	地域分社・四国岩谷産業(株)設立。関西電力(株)と液化水素方式の移動式水素ステーションを共同開発。東芝燃料電池システム(株)と一般家庭用にLPガス改質型家庭用燃料電池コージエネの実証運転を開始。
1947(昭和22)年	大阪市東区本町3丁目に本社社屋建設。	2006(平成18)年	建設を担当した、わが国3番目のLPガス国家備蓄基地「神栖国家石油ガス備蓄基地(20万トン)」完成。マツダ(株)が開発した水素ロータリーエンジン車「RX-8ハイドロジェンRE」を購入。2004年に堺LNG(株)と設立した「(株)ハイドロエッジ」の液化水素、並びに空気分離ガスプラントが運転開始。国際水素エネルギー協会の「コンスタンチン・ツイオルコフスキー賞」受賞。
1953(昭和28)年	マルキプロパンを家庭用に販売開始。	2007(平成19)年	能登半島地震被災地にはMarui Gas災害救援隊を派遣し、新潟県中越沖地震ではカセットフーほかを輸送。東日本で(株)INステンレス加工センター設立。「関西空港水素ステーション」完成稼働。グループの甲賀エナジー(株)で天然ガスを供給開始。種子島から稚内の「日本縦断燃料電池車・水素自動車キャラバン」で水素サイエンス教室などを各地で開催。
1962(昭和37)年	大証・東証第2部に上場、1965年に第1部に昇格。	2008(平成20)年	テリー駐在員事務所を開設。関東圏でも産業向けにLNGを供給開始。英文社名を <b>Iwatani Corporation</b> に改訂。室温でオゾンガスを濃縮する新技術を開発。京都大学と三フッ化塩素(C <sub>2</sub> F <sub>6</sub> )ガスをを用いた半導体製造向けガスクラスターエッチング技術を開発。
1964(昭和39)年	オーストラリアAMA社の日本総代理店となりミネラルサンドの取り扱いに拍車。東京オリンピック聖火に、マルキプロパンが採用される。	2009(平成21)年	「サウジアラムコ・岩谷産業緊急災害時LPガス支援基金」を共同設立。東日本初の液化水素製造プラント、岩谷瓦斯(株)千葉工場で竣工。家庭用燃料電池「エネファーム」の本格販売開始。「西日本水素ハイウェイ実証デモンストラーション」で、堺市から北九州市まで水素自動車4台で626kmを走行。「北九州水素ステーション」完成稼働。純水素型小型燃料電池搭載「水素自転車」を開発。
1966(昭和41)年	カナダからLPガスの輸入開始。	2010(平成22)年	創業80周年。堺、岡崎の機能を集約し、大阪へリウムセンターが稼働・竣工。大阪本社を移転。
1969(昭和44)年	ガス漏れ警報器「みはり」とホースノンこんろ「カセットフー」の2大ブランド商品開発、発売。大阪・東京の2本社制となる。	2011(平成23)年	東日本大震災発生。カセットこんろ35万台、カセットガス905万本を緊急出荷。東京本社にGHPを設置し、節電に努める。牧野明次会長兼CEO、渡邊敏夫副会長、野村雅男社長体制となる。
1970(昭和45)年	大阪本社を大阪市中央区本町3丁目4番8号に移転。企業スローガンに「住みよい地球がイワタニの願いです」を採用。	2012(平成24)年	兵庫県尼崎市に「中央研究所」が完成。「富士の湧水」を原料に使用した化粧品「fujina」を新発売。山口県周南市に国内3ヶ所目の液化水素製造プラント「山ロリキッドハイドロジェン(株)」が運転開始。
1972(昭和47)年	中国の友好商社に指定され中国貿易本格化。	2013(平成25)年	日本初の商用水素ステーション「イワタニ水素ステーション 尼崎」が開所。当社が長年培った排ガス処理技術を応用し、名古屋工業大学、上田石灰製造株式会社と共同で蛍石合成技術を世界で初めて確立。九州初の商用水素ステーション「イワタニ水素ステーション 小倉」が開所。
1973(昭和48)年	岩谷直治記念財団発足。	2014(平成26)年	国内4ヶ所目の液化炭酸製造プラント「堺カーボニクス」を設立。
1975(昭和50)年	大阪ガス(株)と合併で(株)コールド・エア・プロダクツを設立し、空気分離によるガスの製造分野に進出。	2015(平成27)年	日本初の商業用移動式水素ステーション開設へ豊田通商、大陽日酸との3社共同で水素供給の新会社を設立。東京タワー近傍に商用水素ステーション「イワタニ水素ステーション 芝公園」開所。
1977(昭和52)年	川崎製鉄(株)の一次商社となり、金属部門を拡大。		
1978(昭和53)年	初の本格液化水素製造プラント完成。1986年からの全H型宇宙開発ロケットに液化水素を供給。		
1980(昭和55)年	創業50周年。堺LPG輸入ターミナル完成(8万トン強)、翌年ペトロミンよりLPガスの直輸入開始。		
1983(昭和58)年	関東初のセバレートガスプラント「岩谷瓦斯(株)甲府工場」竣工。		
1985(昭和60)年	米ユニオン・カーバイド社と工業ガス分野で業務提携を締結。岩谷直治会長・齋藤興二社長体制船出。		
1986(昭和61)年	第2次生活創業を提唱し、ライフアップ事業スタート。		
1987(昭和62)年	<b>Iwatani</b> のロゴマーク採用。滋賀技術センター(守山市)を開設。NHK交響楽団と事業協力に着手し、1993年には同楽団から「有馬賞」を受賞。		
1989(平成元年)	大連岩谷気体機具有限公司設立を皮切りに、中国で各種の合併事業を展開。		
1990(平成2)年	創業60周年。		
1991(平成3)年	“第1回メセナ大賞1991”で「メセナ賞」を受賞。		
1993(平成5)年	マルキプロパン発売40周年を記念し、ブランドを <b>Marui Gas</b> に改新。		
1994(平成6)年	鹿島共同備蓄LPGターミナル(22.5万トン)と喜連川セバレートガスプラント完成、稼働開始。		
1995(平成7)年	阪神・淡路大震災被災地にカセットフーを緊急輸送。経団連より第11回企業広報賞の“優秀賞”を受賞。		
1997(平成9)年	「イワタニグループ環境憲章」制定。東京本社を現所在地に移転。		
1998(平成10)年	楊井立夫社長、岩谷直治名誉会長体制となる。		
2000(平成12)年	創業70周年。牧野明次社長就任。翌年に関西・中部・北陸の電力3社他とそれぞれLNG販売会社を設立。1998年から3年かけ支社以上の全事業所でISO14001の一括拡大認証を取得。簡易型LPガススタンド「セルフステーションα」開発。		
2002(平成14)年	国内初の「大阪・西島水素ステーション」を完成。国内初の「移動式水素ステーション」開発も行い、水素のインフラ整備を推進。		
2003(平成15)年	民間企業初、2台の燃料電池車(「Honda FCX」と「トヨタ FCHV」)を購入し、全国各地でPR。東京に「有明水素ステーション」を完成。次世代エネルギー・DMEを燃料とする小型トラックや福祉マイクロバスも共同開発。		

## 産業ガス・機械

1930(昭和5)年	大阪市港区に岩谷直治商店を創業し、酸素・溶接棒・カーバイドの販売に取り組む。
1939(昭和14)年	金生海運商会を設立。
1945(昭和20)年	資本金19万8千円で岩谷産業(株)を設立。創業者岩谷直治が社長に就任。
1947(昭和22)年	大阪市東区本町3丁目に本社社屋建設。
1949(昭和24)年	小倉営業所を開設。
1952(昭和27)年	コータキポンプの販売(情報・電子)開始。
1956(昭和31)年	当社を含む専門技術を持つ企業が集結し、炭閃アーク自動溶接装置を開発。
1958(昭和33)年	大阪水素工業(株)(現・岩谷瓦斯)を設立。
1960(昭和35)年	日本初、オリジナル水素トレーラーを実用化。
1962(昭和37)年	切断用ガス「シャープガス」を発売。
1964(昭和39)年	八幡製作所が正式にシャープガスを採用。
1968(昭和43)年	精密溶断機(株)(現・コータキ)製造のPC自動切断機の販売を担当。
1969(昭和44)年	初めての医薬機械としてスティルマス(STILMAS)蒸留水製造装置を販売開始。
1970(昭和45)年	混合ガス「ウエルカット」の本格的な販売を開始。
1975(昭和50)年	イワタニ会を商品カテゴリ別に組織化。(株)コールド・エア・プロダクツ(CAP)を設立。
1976(昭和51)年	「液化水素の放出・拡散、燃焼実験」を実施。連続急速凍結装置「ハイレーLN」を発売。
1977(昭和52)年	垂直多関節溶接ロボット「モートマン」を販売。シールドガス「アコムガス」の発売を開始。NASET結成。
1979(昭和54)年	「東京ガスセンター」稼働を皮切りに、各地に総合ガスセンターを開設。
1982(昭和57)年	窒素PSAの取り扱いを開始。製鉄化学工業(株)(現・住友精化)との合併で「ファインガス(株)」を設立。
1983(昭和58)年	関東初のセパレートガスプラント「岩谷ガス工業(株)(現・岩谷瓦斯)甲府工場」竣工。
1984(昭和59)年	液化水素製造に特化した「日本液体水素(株)」を設立(同社は平成7年7月に解散)。
1985(昭和60)年	ユニオン・カーバイド(UCC)社と業務提携。技術移転プロジェクトを開始。セントラル硝子(株)と共同で、クリーニングガス「C <sub>2</sub> F <sub>3</sub> (三フッ化塩素)」を開発。半導体分野へ本格参入。
1986(昭和61)年	堺ヘリウムセンターの竣工を皮切りに全国展開を開始。
1987(昭和62)年	滋賀技術センター(守山市)を開設。
1989(平成元年)	産業ガス供給拠点の新設とリニューアルに着手。大連岩谷気体機具有限公司設立を皮切りに、中国で各種の合併事業を展開。
1994(平成6)年	鹿島液化ガス共同備蓄(株)と喜連川セパレートガスプラント完成、稼働開始。
1995(平成7)年	サカキ産業(株)と合併で(株)イワタニ北陸ガスセンターを設立。三井石油化学工業(株)(現・三井化学)岩国大竹工場内にエアガスプラントを建設。インドネシアにて「アネカ・イワタニ・インダストリアル・ガス」を設立。
1997(平成9)年	大連市との技術交流と人的交流を活性化。
1998(平成10)年	「WINSUT」による受託加工事業を開始。
2000(平成12)年	「ダイナガードFシリーズ」を開発し、発売を開始。オプトエレクトロニクス市場へ本格参入。
2003(平成15)年	「産業ガス事業構造改革プロジェクト」に着手。シリンダー入りのオゾンガス「WINZONE」を世界で初めて開発。乾式フッ素リサイクルシステム「WINLOOP」を開発。
2006(平成18)年	浙江省嘉興市にて空気分離ガス事業を開始。
2008(平成20)年	京都大学と共同で「C <sub>2</sub> F <sub>3</sub> ガスクラスターエッチング」技術を開発。
2010(平成22)年	山梨県が燃料電池車(トヨタ・FCHV-adv)の6カ月間の実証運転を開始。当社は移動式水素ステーションを設置。カタール国よりヘリウム輸入権益を取得。
2011(平成23)年	岩谷瓦斯(株)甲府工場の空気分離プラントをリニューアル。クライオ事業(エーテック(株))を買収。ハロン回収・充てん設備を岩谷瓦斯(株)姫路工場内に新設。
2012(平成24)年	水素ガスの新溶断混合ガス「ハイドロカット」を開発。
2013(平成25)年	カタール国よりヘリウムの出荷を開始。

## 総合エネルギー

1953(昭和28)年	LPガス事業に着手すべく、プロパン課を設置。プロパンガス関西地区総代理店契約を締結。
1954(昭和29)年	プロパン課を「部」に昇格させ、プロパンガスの本格的な販売を推進。
1957(昭和32)年	「マルキプロパン会」(現・マルキ会)を結成。「プリムス」の輸入販売を開始。
1958(昭和33)年	小倉基地を皮切りに各地に大型供給基地を開設。
1962(昭和37)年	海上大量輸送開始。「アララ」を発売。LPガスタクシーが大阪で実用化。
1963(昭和38)年	オートガススタンド「スカイロケット3.5」の販売に着手。
1964(昭和39)年	東京オリンピック聖火に、マルキプロパンが採用される。
1965(昭和40)年	プロパン事業本部に安全保安部を開設。LPガス技術課を設置。LPガス輸入船「山秀丸」を竣工。
1967(昭和42)年	純プロパンP-100キャンペーンを展開。
1969(昭和44)年	ガス漏れ警報器「みはり」とホースノンこんろ「カセットフー」の2大ブランド商品開発、発売。
1970(昭和45)年	高級暖房機「バルカンスーパーヒート」の輸入販売を開始。ゴキブリ捕り器「インタック」を開発。「みはり」のプロジェクトチームを結成。
1971(昭和46)年	「ガス事故完全追放キャンペーン」を展開。
1974(昭和49)年	MPSの具体的な施策として「マルキ供給センター」を設立。
1976(昭和51)年	標準価格制が廃止。
1977(昭和52)年	「アララクリーン」を発売。
1980(昭和55)年	ベトロミン社と契約を締結。堺LPGターミナル完成。スッポンを粉末にした健康食品を開発。
1981(昭和56)年	サウジアラビアからのLPガス輸入第1船が、堺LPGターミナルに入港。
1985(昭和60)年	工場やホテルなどへコージェネレーションを導入開始。
1987(昭和62)年	多彩な商品・サービスを提供する「ライフアップショップ」を全国展開。24時間監視システム「テレセーフ」を開発。
1988(昭和63)年	調理器「ミルサー」を開発。
1991(平成3)年	LPガス供給ネットワーク再整備の試みを開始。
1992(平成4)年	サマレック社(SAMAREC、現・サウジアラムコ社)とLPガス長期輸入契約を締結。
1993(平成5)年	マルキガス(株)を設立。マルキプロパン発売40周年を記念し、ブランドを <b>Marui Gas</b> に改称。
1994(平成6)年	鹿島共同備蓄LPGターミナル(22.5万トン)と喜連川セパレートガスプラント完成、稼働開始。
1995(平成7)年	「Marui Gas 災害救援隊」を組織。
1998(平成10)年	岩谷マルキガス(株)を設立。
1999(平成11)年	高純度LPガス冷媒「エコフリーズ」の供給を開始。
2000(平成12)年	LNG供給事業をめざし、電力各社と提携。
2001(平成13)年	簡易型LPガススタンド「セルフステーションa」開発。ESCO事業への取り組みを開始。
2002(平成14)年	「マルキガス事業構造改革プロジェクト」を始動。複合型警報器「トリプル警部」を発売。
2003(平成15)年	全国の消費者家庭へ訪問する「台所安心点検サービス」を開始。
2004(平成16)年	ミネラルウォーター「バナジウムの恵み 富士の湧水」宅配事業に進出。
2008(平成20)年	「Marui Gas サプライチェーン店会」を発足。「純水素型燃料電池」搭載のコージェネシステムの実証運転を開始。
2009(平成21)年	家庭用燃料電池コージェネ「エネファーム」を発売。
2010(平成22)年	富士の湧水第3工場より、使いきりパックにて発売開始。動くこども110番出発式を開催。
2011(平成23)年	東日本大震災被災地にカセットフーを緊急輸送。東日本大震災被災地にGHPを寄贈。屋内用「カセットガスストーブ」発売。災害に強い「LPガス発電機」を発売。LPガスによる災害に強いマンション普及のためスターツ(株)と提携。中国で初めての保安機能付マイコンガスメーター発売。
2012(平成24)年	基幹LPGセンター11ヶ所の整備完了。順次拡大。
2014(平成26)年	カセットガス バーベキュー「グリルステーション」を発売。

## マテリアル / 自然産業

1946(昭和21)年	扶桑金属工業(株)(後の住友金属工業)の容器指定問屋となる(金属・鉄鋼)。
1952(昭和27)年	積水化学工業(株)の塩ビパイプの取り扱い(合成樹脂)開始。 住友金属工業(株)の酸素ボンベの取り扱い開始。
1953(昭和28)年	ルチールサンドの取り扱い(鉱産)開始。 塩ビパイプの取り扱いをきっかけに建材部門へ進出。
1960(昭和35)年	ブルーダーの輸入販売(畜産)。
1964(昭和39)年	アソシエイテッド・ミネラルズ(AMA)社との総代理店契約を締結。
1966(昭和41)年	宇部興産(株)が低密度ポリエチレンの生産を開始。 一次代理店を獲得。
1967(昭和42)年	食品の輸入(食品・健康食品)スカイ坦克の製造・販売を開始。
1968(昭和43)年	ビートモスの輸入販売(営農)開始。
1970(昭和45)年	A.R.ウッド社の自動養鶏システムを導入。果樹追熟装置「ネオケープ」を開発。
1972(昭和47)年	土壌深耕機「ハンダー」を開発。
1974(昭和49)年	冷凍野菜の販売を開始。
1975(昭和50)年	農業用温室「イワタニ・アクリハウス」を発売。
1976(昭和51)年	出光興産(株)とポリ袋「アイラップ」(特許取得)を共同開発。「胡麻どうふの素」を開発。
1977(昭和52)年	川崎製鐵(株)の一次代理店を獲得。
1979(昭和54)年	種豚事業への進出(畜産)。
1980(昭和55)年	健康食品事業を開始。
1986(昭和61)年	ナイスタッド工法を開発。
1988(昭和63)年	イワタニアグリグリーン(株)を設立。
1989(平成元年)	イワタニステンレス会を設立。
1990(平成2)年	バンコク アイ・トアを設立。
1992(平成4)年	岩谷テクノコンストラクション(株)(現・岩谷テクノ)を設立。
1993(平成5)年	中国の食品会社「龍大食品有限公司」と取引を開始。
1995(平成7)年	「アルブロック」のレンタル事業に着手。
1997(平成9)年	オーストラリアン・フーズド・マテリアル(AFM)社の日本総代理店権を獲得。
1998(平成10)年	新種雄豚「PIC265」を開発、商品化。中山岩谷有限公司にて、金属スリット事業を開始。
1999(平成11)年	岩谷マテリアル(株)を設立。
2005(平成17)年	(株)プライムポリマーの一次代理店を獲得。
2010(平成22)年	リチウムイオン電池の正極用材料の酸化コバルトを加工する中国メーカーとの総代理店契約を締結。
2012(平成24)年	30%植物由来原料を使用した環境配慮型樹脂を開発。

## 安全保安

1955(昭和30)年	「全国プロバン協会(現・社団法人日本エルピーガス協会)」が発足。
1958(昭和33)年	米国NFPA(米国防火協会)制作の「LPガス火災対策」PRフィルムを輸入。
1965(昭和40)年	プロバン事業本部に安全保安部を設置。
1969(昭和44)年	ガス漏れ警報機「みはり」を商品開発、発売。
1974(昭和49)年	「サンシャイン計画」へ参画。
1977(昭和52)年	支社内に「マルト向上会」(安全推進会議)を発足。
1978(昭和53)年	宮城県沖地震にカセットフーを緊急輸送。
1995(平成7)年	阪神大震災にカセットフーを緊急輸送。
1996(平成8)年	「イワタニグループ保安理念」「イワタニグループ保安綱領」「ISS」を制定。安全保安部を環境保安部に改称。
1997(平成9)年	「イワタニグループ環境憲章」を制定。
1998(平成10)年	イワタニガススタンダード(株)を設立。
2000(平成12)年	「環境ノート」を発行。「高圧ガスハンドブック」を発刊。
2005(平成17)年	トータル保安の推進。

## 海外事業

1939(昭和14)年	中国・上海に「合資会社金生海運商会」を設立。
1949(昭和24)年	台湾への溶接・溶断器具輸出を皮切りに、アジア、オセアニア、欧米へ拠点展開。
1972(昭和47)年	中国から友好商社へ指定されたことを皮切りに現地密着のビジネスを展開。
1979(昭和54)年	全社貿易体制実現のために組織改正を実施。
1989(平成元年)	大連市との合弁会社「大連岩谷気体機具有限公司」を設立。
1994(平成6)年	中国石油加工(SINOPEC)のグループ会社と合弁会社「上海石化岩谷気体開発有限公司」を設立。 食品分野では「上海日申食品有限公司」に資本参加、米粉製造を開始。
1995(平成7)年	金属・機械分野では、華南地区に線材加工の「中山岩谷有限公司」を設立。現地貿易法人「上海岩谷有限公司」を設立。
2000(平成12)年	各地で展開してきた海外事業の見直しを本格化。
2010(平成22)年	「武漢岩谷商貿有限公司」を設立。
2011(平成23)年	「インド岩谷会社」を設立。

## 水素事業

1958(昭和33)年	大阪水素工業(株)(現・岩谷瓦斯)を設立。
1965(昭和40)年	液化水素の製造方法、貯蔵・輸送方法の研究開発に着手。
1978(昭和53)年	初の本格液化水素製造プラント完成。1986年からの全H型宇宙開発ロケットに液化水素を供給。
1986(昭和61)年	H-Iロケット試験機第1号を打ち上げ。
1993(平成5)年	「水素利用国際クリーンエネルギーシステム技術開発」(WE-NET)へ参画。
2000(平成12)年	「水素供給ステーション」を建設。 燃料電池自動車をリース購入。
2004(平成16)年	産官学による連携組織「福岡水素エネルギー戦略会議」を設置。
2005(平成17)年	水素エネルギー部を新設。
2006(平成18)年	(株)ハイドロエッジの営業運転を開始。 第1回「水素エネルギーフォーラム」を東京で開催。国際水素エネルギー協会の「コンスタンチン・ツィオルコフスキー賞」受賞。
2007(平成19)年	「日本縦断燃料電池車・水素エンジン自動車キャラバン」を実施。
2009(平成21)年	東日本初の液化水素製造拠点を岩谷瓦斯(株)千葉工場内に開設。純水素型燃料電池を搭載した移動式電源車が完成。当社の水素エネルギー啓発活動が「第18回地球環境大賞」でフジサンケイビジネスアイ賞を受賞。
2010(平成22)年	全国の小学校で「水素エネルギー教室80」を開催。
2011(平成23)年	HySUT「北九州水素タウン」プロジェクトに参画。 燃料電池自動車の国内市場導入と水素供給インフラ整備に関する13社共同声明を発表。 埼玉県庁にソーラー水素ステーションを設置。
2012(平成24)年	70Mpa商用実証水素ステーション「とよたエコフルタウン水素ステーション」完成。
2013(平成25)年	「山口リキッドハイドロジェン(株)」稼働開始。 日本初の商用水素ステーション「イワタニ水素ステーション 尼崎」が開所。
2014(平成26)年	九州初の商用水素ステーション「イワタニ水素ステーション 小倉」が開所。
2015(平成27)年	日本初の商業用移動式水素ステーション開設へ豊田通商、大陽日酸との3社共同で水素供給の新会社を設立。 東京タワー近傍に商用水素ステーション「イワタニ水素ステーション 芝公園」開所。

# Iwatani

岩谷産業株式会社

大阪本社〒541-0053 大阪市中央区本町3-6-4 TEL(06)7637-3468  
東京本社〒105-8458 東京都港区西新橋3-21-8 TEL(03)5405-5851



このFSCのロゴマークは、この会社案内に使用されている木材繊維が森林管理協議会(FSC)のルールに則って適切に管理されている森林から生産されたものであることを示します。